

「幸田町中学生島原市派遣交流事業を通して」

241127

夏休みに計画されていましたが、台風によって延期になっていた「幸田町中学生島原市派遣交流事業」が、県民ホリデーを利用して1月24日（日）～25日（月）に実施されました。本校からも前期生徒会役員の6名が参加し、島原市と島原市の中学生との交流を深めてきました。参加した6名に感想を聞くと、「中学校への訪問と中学生との交流が印象に残っている」と多くの子が答えてくれました。また、防災への考え方が自分たちとは大きく異なることにも触れていました。今回の交流の様子を全校のみなさんに伝えてもらう機会を設けようと思っています。この交流が、今後の両市町のつながりの一助となることを期待しています。



大歓迎を受けた島原市立第三中学校との交流

幸田町からの中学生の島原市訪問を伝える地元の新聞記事

姉妹都市幸田町の中学生来島  
深溝松平家ゆかりの地巡る

島原市

江戸時代に島原藩を治めた深溝松平家の発祥の地である島原市の姉妹都市、愛知県幸田町の中学生19人を始めとする訪問団が24日、初の交流事業として島原市を訪れ、同家ゆかりの品々が展示されている島原城天守閣や同家菩提寺「瑞雲山本光寺」（同市本光寺町）などを巡り、両市町をつなげた歴史の結びつきについて理解を深めた。同町の町村台併70周年を記念した派遣事業で、台風接近により当初予定の8月



初の交流事業

島原城天守閣内に展示されている松平家4代島原藩主忠刻公作の富士山の絵に関する説明に聴き入る幸田町の中学生ら

深溝松平家

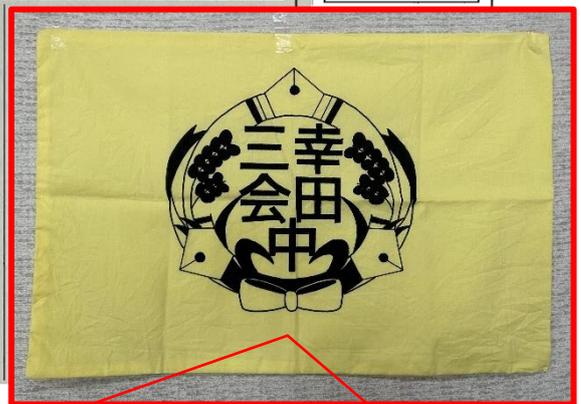
江戸幕府初代将軍・徳川家康と先祖を同じくする三河松平一族のひとつ。島原・天草一揆（島原の乱、1637～38年）後の1669年に同家6代当主・松平忠房公が混乱した藩政復興のため島原藩主として入封し、その後、忠和公まで13人の同家当主が島原藩を治めた。

両市町には同家の菩提寺「瑞雲山本光寺」が建立され、歴代島原藩主の亡骸はすべて「墳墓の地」とされる深溝本光寺に丁重まつられている。藩主らは参勤交代の途中で先祖の墓参に立ち寄るなど、江戸時代から人々の交流があったとされている。

から延期されていたもの。一時仕えていたとされる豊臣秀吉の城造りで用いられ、た坂主の権威の象徴で、城内に複数個埋め付けられている巨大「鏡石」や敵を一見シンプルのようであるは

幸田町の関係性がより良いものとなるよう交流を深めていきたい。島原城の見学が、一番の楽しみだった。

両市町は2017年10月11日に姉妹都市提携を締結し、相互訪問などを続けている。



訪問先の島原市立三會（みえ）中学校が、今回の訪問のために「幸田中と三會中」の校章を組み合わせて製作してくれた友好のシンボルマークを入れた旗です。デザインすることが得意な生徒さんが中心となって、幸田中の「稲穂」と三會中の「ペン」を取り入れたデザインになっています。迎え入れてくださる側の温かさ、おもてなしの心が伝わってくるものです。ありがとうございますね。